

AIBS 学会の 更なる飛躍に向けて

亜細亜大学長

AIBS 学会長 池島 政広

AIBS 学会の母体である亜細亜大学大学院アジア・国際経営戦略研究科が2006年に開設されてから、来年で10年目になります。その翌年に生まれた本学会も大きな節目を迎え、更なる飛躍に向けて動いていかねばなりません。この学会の目的は、アジアビジネスを国際経営戦略的な視点から研究した成果を相互に研鑽する場であると共に、アジアの繁栄に貢献できる人材の育成にも取り組む学会であります。座学だけではなく、現実に動いている生の事例を取り上げて、理論と実践とのキャッチボールをしております。企業経営の失敗の事例まで含めた論議は、ビジネス実践上の価値だけではなく、教育・研究上でも、極めて参考にするべき点が多いです。

このような本音の論議は、産業界との信頼関係がなければできません。大学側は、産業界からの今動いている事例を通じて、戦略的な施策あるいは課題などを知ることができ、そこから実態を踏まえた理論的な整理をしていくプロセスに磨きを掛けることができます。産業界側は、そのような理論を踏まえ、これからの戦略展開を熟慮することが可能になります。また、大学院の留学生の様々な考え方や価値観に接して、ビジネス対象先であるアジア地域の生活様式などを把握できて、大いに参考になると思います。また、この学会では、色々な業界の実務家が集うことにより、思いもよらない知見に出会うこともあるでしょう。さらには、アジアの繁栄という高い志に絡み、行政の方との交流も必要になります。この学会はアジアを舞台に、“産学公連携を通じた理論的・実践的な論議が出来るプラットフォーム”になっております。そこから、アジアビジネスの新たな知見、さらには、そのビジネスを実際に担い、アジアの繁栄に貢献できる有為な人材が育ち始めております。

本学会では、昨年5月に、初めて中国の大連で、エグゼクティブセミナーを開催いたしました。親日的な地域で、日系企業もかなり進出しているところであり、JETRO 大連の荒畑事務所所長から大連の位置づけなどマクロ的な動向に興味深く拝聴し、YKKの大連の佐々木総経理（当時）からの、インターシップなどを通じた若き人材の育成などについての熱い語りも印象に残っております。

8月には、日本からの直接投資も大きいベトナムのハノイ、そしてタイのバンコクでのセミナー開催という強行日程をこなしてまいりました。ハノイではフォスター電機の金井ベトナムグループチェアマン、共英製鋼の山川ベトナム代表者に各々、ベトナム事業の展開、それを支える人材の育成について、生の声を聞いたことは、とても勉強になったと思います。また、バンコクでは、JETROの田中バンコク事務所次長から現実のタイの政治経済の状況や日系企業への影響を伺えたことは有意義であり、本学の客員教授でもある日本経済新聞社の後藤編集委員によるバンコクと他のASEAN都市の競争力の比較分析は、今後のアジアビジネスを考える上で示唆に富む講演でありました。

11月の恒例の上海セミナーでは、大日本印刷の伊東中国統括首席代表から、中国事業の立ち上げから、現在までの執念に満ちた事業への取り組み、武元資生堂・上海卓多姿中信化粧品総経理による資生堂の中国事業での成功と問題点の冷静な分析には感銘を受けました。

今後、AIBS 学会の更なる飛躍に向けて、アジアのネットワークを整えてまいりますので、会員の皆様のご助言、ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。